kosei
生かされ、生きるチカラ。

修羅の心を見つめて、向きあえた人生の課題。

千葉教会　松本晃一さん

松本さんは大学卒業後、郷里で中学校教師になった。しかし、教員試験合格に地元の名士だった父親の口添えがあったことが許せずに職を捨て、家出同然で東京へ。バブル景気に湧く夜の飲食業界で働き始めるとおもしろいように儲かった。その慢心から、飲みに行った店でクレームをつけては喧嘩を仕掛けることもしばしば。自分さえ良ければ他人がどうなろうと構わなかった。バブル崩壊後、飲食業は立ち行かなくなり、ついにはヤミ金融の取り立ての仕事に就いたのだった…。それから間もなく松本さんの言動のすべてを受けとめてくれる妻の美佐子さんや仲間との出会いが転機となり、修羅の心は改められていった。音信不通だった実家へも出向き、脳梗塞で寝たきりの父とも対面できた。父親は、穏やかになった息子の顔を見てすべてを察し、安堵の表情でうなずいた。現在は、学習教材を販売する会社で働き、地域の主任児童委員として子どもたちを見守っている。ときおり、昔の父の姿が心をよぎる。「反発してきた父と、いまは似たようなことをしています」と、松本さんは少し照れたような笑顔で語る。

合掌の心

師走を迎えると、世間の喧騒も相まって何かと気忙しいものです。しかし、そうしたなかでも「この一年、自分はどのように過ごしてきただろうか」とふり返り、内省する時間をもつことは大切です。法華経に登場する常不軽菩薩は、合掌礼拝によって内省を深める典型といえます。「私はあなた方を敬います。なぜなら、みな仏になる方々だからです」。だれに対してもそういって手を合わせる常不軽菩薩は、もちろん自身の尊厳を自覚していたことでしょう。しかし、そのうえで合掌礼拝をとおして「私は憍慢になっていないだろうか」と、つねに自身を省みていたということができます。じつはそこに、私たちにとって大事な点があるように思うのです。

もし、いま心がすれ違ったままの人がいたら、ぜひ合掌礼拝の心で接してみてください。「お互いさま、生まれ難き人界に生まれしを喜ぶ」。そんな言葉を胸に、幼い子どものように素直になって――すると小さなとらわれが消え、調和の世界に一歩近づいていきます。そうしてともどもに、すっきりとした気分で新年を迎えたいものです。

立正佼成会
www.kosei-kai.or.jp　Eメール：info@kosei-kai.or.jp　〒166-8537 東京都杉並区和田2丁目11番1号　TEL.03-5341-1615